

発達障害理学療法学演習

《担当者名》 大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp 多田菊代

【概要】

発達障害理学療法学において学習した内容に基づき、発達段階に生じる中枢神経系障害や末梢神経系障害、筋骨格系障害など、理学療法の対象となる障害像を持った子どもに対する理学療法評価および介入について、体験を通じて実際の内容を理解する。講義や映像・画像を用いた演習、および学生相互の実技実習により、評価・介入の実際を体験して習得を促進する。

【学修目標】

【一般目標】

発達障害分野の理学療法の実施計画を行うために、その実際について学び、計画を立てることができる。

【行動目標】

1. 発達障害分野の対象となる疾患群の障害像を説明できる。
2. 発達障害分野の対象となる疾患群に対する評価を計画できる。
3. 発達障害分野の対象となる疾患群に対する介入を計画できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	オリエンテーション 概略	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習 方法の説明 ゴール・介入の考え方	大須田祐亮 多田菊代
3) 4	原始反射	原始反射の誘発	大須田祐亮 多田菊代
5) 6	運動発達	運動発達の体現	大須田祐亮 多田菊代
7) 8	姿勢評価	各疾患に対する立位・座位の姿勢評価	大須田祐亮 多田菊代
9) 10	姿勢評価	各疾患に対する背臥位・側臥位・腹臥位の姿勢評価	大須田祐亮 多田菊代
11) 12	ポジショニング	新生児・重症心身障害児者に対するポジショニング	大須田祐亮 多田菊代
13) 14	摂食	摂食機能の発達と評価・介入	大須田祐亮 多田菊代
15) 16	呼吸	呼吸機能の発達と評価・介入	大須田祐亮 多田菊代
17) 18	動作観察・分析	筋ジストロフィーの動作観察・分析	大須田祐亮 多田菊代
19) 22	動作観察・分析	脳性麻痺の動作観察・分析	大須田祐亮 多田菊代
23)	歩行観察・分析	筋ジストロフィーの歩行観察・分析	大須田祐亮 多田菊代

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
24			
25)	歩行観察・分析	脳性麻痺の歩行観察・分析	大須田祐亮 多田菊代
26			
27)	理学療法介入	発達障害分野の理学療法介入	大須田祐亮 多田菊代
28			
29)	Paper patient	紙面上の情報から症例に必要な理学療法評価、介入、問題点、目標を考える	大須田祐亮 多田菊代
30			

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 85%

提出物など 15%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には対応する。

【教科書】

上杉雅之 監 「イラストでわかる小児理学療法」 医歯薬出版 2013年

上杉雅之 監 「イラストでわかる小児理学療法学演習」 医歯薬出版 2018年

【参考書】

上杉雅之 監訳 「脳性まひ児の家庭療育」 医歯薬出版 2013年

大城昌平 他 編 「新生児理学療法」 メディカルプレス 2008年

木原秀樹 「新生児のポジショニングノート」 メディカ出版 2013年

上杉雅之 監訳 「乳幼児の運動発達検査」 医歯薬出版 2010年

近藤和泉 他 「GMFM粗大運動能力尺度 脳性麻痺児のための評価的尺度」 医学書院 2000年

里宇 明元 他 監 「PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法」 医歯薬出版 2003年

上杉雅之 監訳 「親と専門家のための脳性まひ児の運動スキルガイドブック」 医歯薬出版 2015年

藤井克則 編 「動画でわかる小児神経の診かた」 羊土社 2020年

日本リハビリテーション医学会 監 「脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第2版」 金原出版 2014年

* 上記は以下でダウンロード可能

http://www.jarm.or.jp/wp-content/uploads/file/member/member_publication_isbn9784307750387.pdf

【備考】

講義終了時に提出物などの課題を設定することがある。

課題は、かならず期限までに提出すること。

必要に応じて教材動画をクラウドを通じて共有することがあるため、講義参加時にICT機器の準備が必要な場合は事前に周知する。

講義進行の妨げになるような行為が見られた場合は退席を命じ、出席を認めないことがあるため注意すること。

【学修の準備】

発達障害理学療法で配布した資料や教科書対応ページを参考とし、各回の授業内容について予習すること（80分）。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を實踐できる能力を身につけている。

【実務経験】

大須田祐亮、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

(2026年度・リハビリテーション科学部)

医療機関、社会福祉法人での実務経験を活かし、発達段階において生じた障害を持つ子どもや成人の対象者への理学療法について、演習や体験を通じて実際の評価や介入への理解が深まるよう講義・演習する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している